１月２日のメッセージ

聖書：ルカによる福音書　2：　41－52

「どうしてわたしを捜したのですか」

天の使いの預言によって始まったイエスの誕生物語。宿屋に泊まるところが無かったり、家畜小屋での出産だったり、初めからその物語は波瀾万丈でした。おまけに羊飼いたちの訪問や占星術の学者たちの訪問という大きなイベントも重なって、思い出いっぱいの誕生劇となりました。そして、それから 12 年の月日が流れました。初めての子育ては大変です。何もかもが初めて尽くし。両親は一所懸命、子育てに励んだことでしょう。おまけにきょうだいも生まれ、生活は忙しかったに違いありません。そのような中でも、家族はユダヤ人としてきちんと礼拝を守り続けていました。だから過越祭には毎年、エルサレムに足を運んでいました。今年もいつもと同じような過越となるはずでした。

ところが、帰り道、一緒にいるはずのイエスがいません。必死に捜す両親を尻目に、イエスは神殿の境内で学者たちと問答に興じています。おそらくこの 12 年の間、イエスはいわゆる普通の子として成長し、特に優れた様子を見せられなかったのかもしれません。だから両親は「なぜこんなことをしたのか」(「両親はイエスを見て驚き、母が言った。『なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです。』」ルカによる福音書 2:48)と叱ったのでしょう。それは、親としての愛の表れでもありました(「ちょうど母親がその子供を大事に育てるように、わたしたちはあなたがたをいとおしく思っていたので……」テサロニケの信徒への手紙一 2:7-8)。

しかし、両親はわかっていませんでしたが、イエスがエルサレムに来られたのは、ゼカリヤの預言の実現でした(「わたしは再びシオンに来て／エルサレムの真ん中に住まう。……」ゼカリヤ書 8:3)。神の約束、イスラエルが未来永劫繁栄することの実現でもありました(「わたしが選んだ者とわたしは契約を結び／わたしの僕ダビデに誓った／あなたの子孫をとこしえに立て／あなたの王座を代々に備える、と。」詩編 89:4-5)。

神がその約束を実現されるのは自己満足からではありません。ただイスラエルを愛されるが故に実現されます。歴史を通して神は、常にイスラエルと共にいることを約束し、そのためにあらゆる手段を講じられるのです。イエスが神殿の境内で学者たちと共におられたのも、神がイスラエルを愛していること、神の言葉の正しさを教えるために他なりません。イエスは人の思いに応えるというよりもむしろ、神に応えるためにエルサレムに残られました(「……人に喜ばれるためではなく、わたしたちの心を吟味される神に喜んでいただくためです。」テサロニケの信徒への手紙一 2:4)。だから、「どうしてわたしを捜したのですか」(「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」ルカによる福音書 2:49)と問われたのです。イエスにとっては当たり前のことをしているだけなのに、なぜそのことに気づかないのか。神を信じ、神に聞き続ける中でそのことは自ずからわかってくるはずではないか、と。

エルサレムでの出来事を通して、意味がわからなくても「何かが始まっている」ことを母は感じました(「しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった。……母はこれらのことをすべて心に納めていた。」ルカによる福音書 2:51)。神の約束の実現はすでに始まっています。人間の思いを超えて、実に密やかに始まっています。それは人間の目には救いの始まりとは思えないような出来事かもしれません。それを見逃すことのないように、自分の思いに囚われることのないように、しっかりと全ての出来事を見つめて参りましょう。